

# 指定国立大学法人としての東北大学の将来構想

世界から尊敬される三十傑大学を目指して

## 創造と変革を先導する大学

絶えざる卓越した教育研究による  
知の創造

社会・経済の変革を先導

### 人材育成

国際共同大学院を中心とした特色ある学位プログラムの提供

- ① 学際・国際・産学共創を理念とする学位プログラム群の展開及び「東北大学高等大学院」への発展
- ② 「国際共同大学院」をはじめとした魅力ある学位プログラムの拡充により優秀な学生を世界から獲得
- ③ 大学院学生に対する本学独自の経済的支援制度の拡充・強化

### 大学経営革新

先進的なアカデミックガバナンスを基盤としたさらなる機能強化

- ① 総長補佐体制の強化（プロポスト制度の導入など）、全学機構改革
- ② 戦略的な産学連携経費の創出、国立大学最大の戦略的供用可能スペース・施設を活用した財政基盤の強化
- ③ 国立大学最大規模の総長裁量経費を活用した重点施策の加速的推進

### 研究力強化

世界トップレベル研究拠点の形成

- ① 「高等研究機構」を頂点とした「研究イノベーションシステム」の構築
- ② 材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学の4領域における世界トップレベル研究拠点の形成
- ③ 総長のリーダーシップにより「高等研究機構」に本学独自の若手研究者育成システムを構築（200人体制）

### 社会との連携

イノベーションを先導する世界的産学連携研究開発拠点の構築

- ① 産学連携機能の抜本的強化による東北大学発イノベーションの加速
- ② 青葉山新キャンパスにおける産学共創と課題解決型研究の推進
- ③ 急成長するライフサイエンス分野における産学共創の戦略的推進

課題・要請

国際的プレゼンスの抜本的向上

社会からの要請に応える大学機能強化

## 東北大学のこれまでの取組

### 研究推進

- ・学際科学フロンティア研究所創設
- ・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI-AIMR）
- ・国内大学初の本格的な訪問滞在型研究プログラム「知のフォーラム」
- ・革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）
- ・東北メディカル・メガバンク機構創設
- ・災害科学国際研究所創設

### 教養教育改革

- ・高度教養教育・学生支援機構創設

### 大学院改革

- ・21COE、GCOE、博士課程教育リディングプログラムなど
- ・学際高等研究教育院（120名支援）

### 国際化

- ・大学間交流協定（35か国・207機関）
- ・国内最大規模の国際混住型学生寄宿舍（ユニバーシティ・ハウス）整備

### 教育国際化

- ・グローバル30（国際学位コース）
- ・グローバル人材育成推進事業
- ・スーパーグローバル大学創成支援

### 博士キャリアパス支援

- ・イノベーション創発塾

### 多様な人材登用・戦略的な人事

- ・外国人雇用促進経費
- ・女性研究者支援事業
- ・リサーチプロフェッサー制度など

研究 第一

門 戸 開 放

実 学 尊 重

建 学 （1907年） 以 来 の 3 つ の 精 神

# 地球と人類社会の未来に貢献する 「知の協創の世界拠点」の形成

## 未来ビジョンの共有

### 個を活かし、人類全体が調和的に発展する社会

スマート化による社会産業のパラダイムシフトを加速し、世界に先がけて **Society5.0** を実現  
大学が知・技・人のハブとなり、**知識集約型**への社会変革の起点となる

- 多様性の尊重
- インクルーシブ、総活躍社会
- SDGs の達成と経済成長の両立
- World Economic Forum や国連大学との連携強化



## アクションターゲット

- 学術未来資産形成: 若手登用促進、国際卓越大学院 (WINGS)
- 国際求心力: 大型国際共同研究施設、国際卓越研究拠点
- 知の発信: 人文知、データ活用型社会の学理
- 総合知の活用: 1) 健康・長寿、2) エネルギー・環境、3) 経済格差・ジェンダー平等
- 公共財としての大学を支える新しい経営モデルの提示

## 次の70年へ (UTokyo 3.0) 未来社会協創推進本部を司令塔とした 運営から経営への転換

### 財源構築 (第3期に100億円以上)

- 経営改善: 人・金・スペースの透明化による効率化と土地の有効活用
- 財源多様化: 評価性資産による収入確保、寄附文化醸成、新株予約権受入

### 戦略的先行投資

- 人材・教育: 300以上の若手研究者ポスト確保、学生の国際総合力強化 (年4億円投資)
- 研究: 国際的著名研究者招聘、優秀若手研究者海外派遣
- 社会連携: プロデュース機能強化、フィールドスタディ型政策協働プログラム
- 運営: 事務職員のプロフェッショナル化、シニア人材活用



東京大学スポーツ先端科学研究拠点 (2016.5開設)

## 成果の発信

(国際的視点からの評価・点検)

### 進捗確認 & 評価

Institutional Research による客観的データに基づき、達成状況をエビデンススペースで測定

### 有識者による外部評価

- 経営協議会
- 東京大学産学連携協議会
- 東大・経団連ベンチャー協創会議
- UTokyo Global Advisory Board
- IARU (International Alliance of Research Universities)



## 価値の創造

### 産学協創による社会・産業の変革

CSVやESG指数による投資指標とのリンクによりSDGsを企業経営戦略へ

- ベンチャー育成: 起業家教育、カーブアウト支援
- インキュベーション機能強化: 本郷・柏・駒場+目白台に施設増、計1ヘクタール (日本最大級)
- つくば-柏-本郷イノベーションコリドー
- 産学連携ニーズ対応型実践的リカレント教育
- ファンドオブファンズ: VCを鍛え、死角のないエコシステムを構築



## 京都大学 基本理念

創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、  
多元的な課題の解決に挑戦し、**地球社会の調和ある共存に貢献する**

## 新たな知の創造・イノベーションの確立・未来社会への指針を示すための取組を実行

### 柔軟かつダイナミックな体制による知の創造

- 複数の領域で世界の最先端研究をリード
- 融合領域の新規開拓、強い分野の国際展開

#### 1 世界を先導する最先端研究の推進

##### 1) 再生医療と先端医学研究

- ・ 人々の健康と超高齢社会における医学医療の未来創成に貢献

##### 2) 化学と生命科学の融合

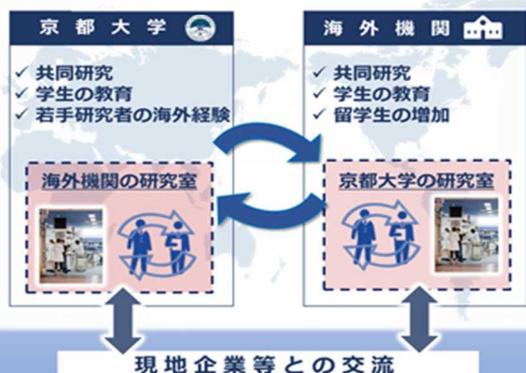
- ・ 広範な領域で新しい学術分野の開拓

##### 3) 高等研究院

- ・ 卓越した研究者の英知が結集する国際研究ハブ

#### 2 On-site Laboratory

- ・ 海外の大学や研究機関等との協働による現地運営型研究室(下図:イメージ)



### 高度で多様な頭脳循環の形成

- 教育の一層の国際化
- 多様な人材の育成・輩出、優秀な人材獲得

#### 学生対象

##### 1 吉田カレッジ (仮称)

- ・ 国内外の学生に開かれた国際学部教育プログラム

##### 2 卓越大学院 (仮称) プログラムによる博士人材 (「知のプロフェッショナル」) の育成

##### 3 GST (Graduate Student Training) センター (仮称)

- ・ 大学院生の教育研究能力向上のための全学研修体制の構築

##### 4 留学生リクルーティングオフィス (仮称)

- ・ 優秀な留学生の戦略的獲得の推進

##### 5 大学院生・留学生への各種施策の展開

#### 研究者対象

##### 1 白眉プロジェクト

- ・ 学術領域を問わず世界中から優秀な若手研究者を獲得

##### 2 若手教員数の増加

- ・ 第4期中期目標期間内に定員内若手教員比率を30%に引き上げ

### 新たな社会貢献を目指して

- 産官学連携活動を推進する体制の構築
- これまでの学術的成果を背景とした現代世界の諸課題解決への貢献

#### 産官学連携

##### 1 産官学連携の新しい「京大モデル」の構築

- ・ 大学出資による機能別事業子会社の設立・運営
  - ① 総研機能 (コンサルティング・シンクタンク事業等)
  - ② 技術移転機能
  - ③ ベンチャー支援機能
- ・ ホールディング・カンパニー (持ち株会社) の設立を志向

##### 2 既存の枠組みにとらわれない

##### 産官学連携の促進

- ・ 「組織」対「組織」による共同研究スキームをより一層推進

#### 社会への貢献

##### 1 日ASEANの協力関係のより一層の推進

- ・ 包括的な学術・科学技術協力の推進により、「持続可能な開発」に貢献

##### 2 人文・社会科学の未来形の発信

- ・ 国際化の推進、文理融合による新学術領域の創成

### 世界に伍する京大流大学運営

- 大学運営におけるトップダウンの方針とボトムアップの意思の調整に基づく全学的な戦略立案の必要性
- 大学独自の戦略的活動を支える安定的な自己財源の必要性

#### ガバナンスの強化

- 1 京大版プロボストと企画調整会議 (カウンスル) (仮称)
- 2 国際的視野によるエビデンスベースの大学運営 (国際戦略本部 IR、URA)
  - ・ 執行部と部局・学系間との密接な連携調整のもと企画・戦略立案

#### 財務基盤の強化

- 1 自己収入の拡大
  - 1) 寄附金
  - 2) 社会人学習プログラム
  - 3) 資産の有効活用
- 2 収益事業の展開